



晴天の心

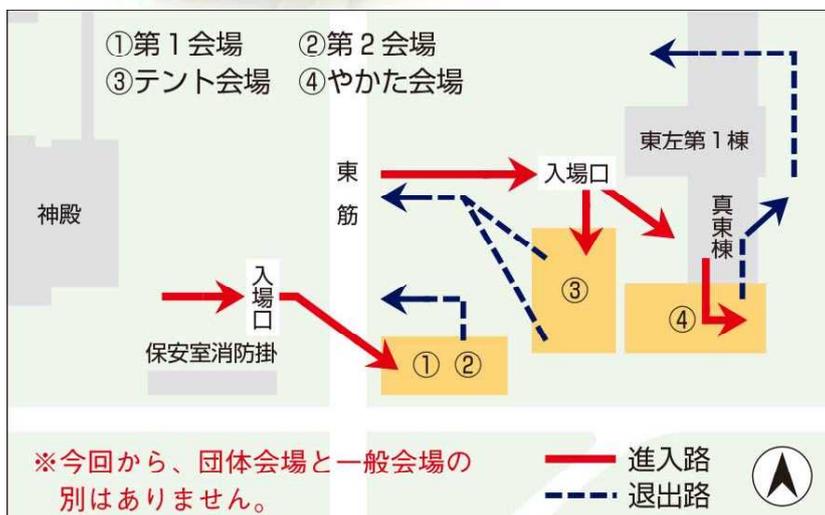
立教186年1月号
大阪府富田林市寿町 4-9-10
URL:www.tomiishi.net
TEL:0721-23-3466 090-5243-4669



春季大祭 1月19日(木) 午前10時～
婦人会例会 1月9日(月) 午前10時～



立教186年本部お節会
1月5日(木)～7日(土)
10時～13時
詳細は後日発表



【期日】

1月5日(木)、6日(金)、7日(土)

【時間】午前10時～午後1時

【会場】第1会場(第1食堂)、第2会場(第2食堂)、テント会場(おやさとやかた東右第1棟西側)、やかた会場(おやさとやかた東右第1棟2階、3階、講堂)

今回から、各入場口には団体と一般の別を設けません。第1会場、第2会場は消防掛前広場、テント会場、やかた会場は、おやさとやかた真東棟前広場で、それぞれ誘導整理を行います。詳細は「お節会会場案内図」をご覧ください。

- ・ 入場口での御神酒の振る舞いはありません。
 - ・ お一人につき、お雑煮を一椀お出しします。お餅や水菜のお代わりはありません。
 - ・ 会場出口において、袋入りのお下がりのお餅(2個)をお渡しします。
 - ・ 感染症対策として、会場入り口で手指消毒を行っていただきます。
- また、対面での喫食を控えるため、座席は机の片側のみとします。

当教会として、今年は団参は予定していませんが、個人券については当日詰所受付で配布しております。また事前に連絡いただければご用意いたします。

石川分教会五代会長就任奉告祭・創立130年記念祭

2月11日11時～

新会長として豊田厚子が12月におゆるしをいただきます。どうぞ、お祝いのお心寄せをお願いいたします。

教祖伝逸話編

32.女房のローつ

大和国小阪村の松田利平の娘やすは、十代の頃から数年間、教祖の炊事のお手伝いをさせて頂いた。教祖は、「おまえの炊いたものを、持って来てくれると、胸が開くような気がする。」と、言うて、喜んで下された。お食事は、粥で、その中へ、大豆を少し入れることになっていた。ひまな時には、教祖と二人だけという時もあった。そんな時、いろいろとお話を聞かせて下されたが、ある時、「やすさんえ、どんな男でも、女房の口次第やで。人から、阿呆やと言われるような男でも、家にかえって、女房が、貴方おかえりなさい。と丁寧扱えば、世間の人も、わし等は、阿呆と言うけれども、女房がああやって、丁寧に扱っているところを見ると、あら偉いのやなあ、と言うやろう。亭主の偉くなるのも、阿呆になるのも、女房のローつやで。」と、お教え下された。

やすは、23才の時、教祖のお世話で、庄屋敷村の乾家へ嫁いだ。見合いは、教祖のお居間でさせて頂いた。その時、「神様は、これとあれと、と言われる。それで、こう治まった。治まってから、切ってはいかん。切ったら、切った方からきられますで。」と、仰せられ、手を三度振って、「結構や、結構や、結構や。」と、お言葉をくだされた。

37.神妙に働いて下されますなあ

明治七年のこと。ある日、西尾ナラギクがお屋敷へ帰って来て、他の人々と一しょに教祖の御前に集まっていたが、やがて、人々が挨拶してかえろうとすると、教祖は、我が子こかんの名を呼んで、「これおまえ、何か用事がないかいな。この衆等はな、皆、用事出して上げたら、かいると言うてない。何か用事あるかえ。」と、仰っしゃった。すると、こかんは、「沢山用事はございますなれど、遠慮して出しませなんだのや。」と答えた。その時、教祖は、「そんなら、出してお上げ。」と、仰っしゃったので、こかんは、糸紡ぎの用事を出した。人々は、一生懸命紡いで紡錘に巻いていたが、やがて、ナラギクのところで一分出来上がった。すると、教祖がお越しになって、ナラギクの肩をポンとおたたきになり、その出来上がったのを、三度お頂きになり、「ナラギクさん（註、当時十八才）、こんな時分には物のほしがる最中であるのに、あんたはまあ、若いのに、神妙に働いて下されますなあ。この屋敷は、用事さえする心なら、何んぼでも用事がありますで。用事さえしていれば、去のと思ても去なれぬ屋敷。せいで働いて置きなされや。先になったら、難儀しようと思たとて難儀出来んのやで。今、しっかり働いて置きなされや。」と、仰せになった。註西尾ナラギクは、明治九年結婚の時、教祖のお言葉を頂いて、おさめと改名、榊井おさめとなる。



47.先を楽しめ

明治九年六月十八日の夜、仲田儀三郎が、「教祖が、よくお話の中に、『松は枯れても、案じなし。』と、仰せ下されますので、どこの松であろうかと、話し合っているのですが。」と言ったので、増井りんは、「お祓いさんの降った松は枯れる。増井の屋敷の松に、お祓いさんが降ったから、あの松は枯れてしまう。そして、あすこの家は、もうあかん。潰れてしまうで。と、人人が申します。」と、人の噂を、そのままに話した。そこで、仲田が、早速このことを、教祖にお伺いすると、教祖は、「さあ／＼分かったか、分かったか。今日の日、何か見えるやなけれども、先を楽しめ、楽しめ。松は枯れても案じなよ。人が何んと言うても、言おうとも、人の言う事、心にかけるやない程に。」と、仰せ下され、しばらくしてから、「屋敷松、松は枯れても案じなよ。末はたのもし、打ち分け場所。」と、重ねてお言葉を下された。